

活動報告書

報告者氏名：安藤英女 所属：長野県稲荷山養護学校 記録日 2013年2月15日

【対象生の情報】

- ・学年 中学部 2学年女子
- ・障害名 広汎性発達障害
- ・障害と困難の内容
集団での活動が苦手に対人関係にも常に不安を持っている。また、コミュニケーションのスキルも乏しい。そのため、活動場所や活動内容が限定されており、不安が強い時や自分の気持ちをうまく表現できない時にはつばを吐いたり、叩いたり、物を投げたりすることもある。

【活動目的】

- ・当初のねらい
安心できる場面や方法広げ、落ちついた生活を送る（心理的安定）ために活用
参加できる活動を増やすために活用
- ・実施期間 2012年4月～2013年2月。主に昼休み
- ・実施者 安藤英女
- ・実施者と対象生の関係 学級担任

【活動内容と対象生の変化】

- ・対象生の事前の状況
本人の好きな活動（朝の体操や調理活動）以外は、「やだ」「やらない」「行かない」といって活動に参加しなかったり活動場所に移動しなかったりしたことがほとんどだった。対人関係や見通しの持てない活動への不安の強さや興味関心の薄さが大きく関わっていると思われた。
- ・活動の具体的内容
昨年度から使用していて本人が気に入っている「Talking Larry」のアプリを使用した。本人の興味関心が高いこと、本人の言葉をすぐにフィードバックしてくれることから、学校生活の中での不安の軽減や、「Talking Larry」を介してよりよいコミュニケーションのスキルを身につけることを期待した。
- ・対象生の事後の変化
「Talking Larry」を含めた複数の Talking シリーズのキャラクターと会話することを楽しみに生活していた。また、キャラクターと一緒に行動する、キャラクターが登場するという設定でいくつかの活動に参加できた。

【報告者の気づきとエビデンス】

- ・主観的気づき
自分が話す言葉がダイレクトに返ってくること、適度な音量があること、持ち運びしやすいことから、日々 iPad を使うことを楽しみにしている様子が伺えた。また、TalkingLarry のキャラクターに毎回「ラリーくん！」と親しみを込めて呼んでいるところから「ラリーくんとお出かけしよう」という設定（ラリーくんがお出かけの計画をしてくれる設定）にしたところ校外活動へ気が向き始めた。また、iPad を使ううちにほかのキャラクターがいることも知り「○○（に会いたい）」と伝えてくるようになった。

- ・エビデンス

【2012年7月5～6日：宿泊学習】

1泊2日の学年最大の行事である。5月より「ラリーくん」からの情報を旅のしおり（図1）通して知らせていった。最初は「行かない」と言っていたが、出発2日前からようやく気持ちが向いてきた。目的地は全体とは同じで行程は別であったが、2日間旅のしおりの計画通りに過ごすことができた。

〈図 1〉



【2012年7月24日：学級活動】

クラスの1学期のまとめの活動として、学校の近くのお店にソフトクリームを食べに行くことになった。対象生はこれまで外食を経験したことがなかったが、ラリーくんのスケジュール〈図2〉にそって担任とともに出かけることができた。〈写真1〉

〈図 2〉



〈写真 1〉



【2012年10月12日：中学部音楽集会】

今年度、部や学年の集会には全く参加していない。そこで音楽集会では「好きな友だちに音楽をきかせよう」という設定で対象生なりの目標で取り組んだ。好きな友だちの中には「ラリーくん」を始め Talking シリーズの「リラ」「ロビー」「ヒッポ」など iPad 上のキャラクターが絵カードでお客さんとして登場した。当日は友だちと一緒に演奏はできなかったが、自分から音楽室へ行き得意な曲ピアノ演奏し、好きな友だちに聞かせていた。〈写真2〉

〈写真 2〉



【2012年10月25日：校外学習】

期日が近づくと「お弁当、公園」と自分からやりたいことを伝えてきた。そこで、全体とは目的地も行程も違うが本人の願いに沿った校外学習をラリーくんに計画してもらおうという設定にした。対象生の希望の他に、対象生の好きな活動と思われるカラオケや初めての体験となる循環バス利用も行程に入れた。バス利用に関しては、バスに乗ると「ヒッポバスチケット」がもらえ、校外学習後 iPad 上に「Talking Hippo」が登場するというお楽しみも加えた。当日の詳しい日程は旅のしおりのほかに iPad でラリーくんに案内してもらった動画で知らせた。事前からしおりや動画をよく見ていて、当日もラリーくんとともにしおりの計画通りに行動できた。